

景観の 総合 資料学

— 漁場図を読む2 —

2020年 **12月12日** [土]

13:00~17:30 **オンライン開催**

参加無料
事前申込み

趣旨説明 安室 知（神奈川大学日本常民文化研究所長）

● 松田 睦彦（国立歴史民俗博物館）

石丁場 — 技術の進歩と景観の変化

● 惠谷 浩子（奈良文化財研究所）

北山林業と民家の庭 — 京都市中川地区における文化的景観調査から

● 橋本 道範（滋賀県立琵琶湖博物館）

消費から漁撈を考える — 琵琶湖のフナズシをめぐる

● 安室 知（神奈川大学日本常民文化研究所）

エリの造形と分布 — 「魰税取調帳」から読む歴史

総合討論

※内容につきましては、変更する場合がございます。

お申込み・お問い合わせ

申込方法 「第24回講座 参加希望」を明記の上、①氏名 ②郵便番号 ③住所 ④電話番号を記載し、
jomin-kouza24@kanagawa-u.ac.jp までメールをお送りください。

今回は、Zoomのweb会議ツールを用いてオンライン開催をいたします。
お申し込みいただいた方には、後日 ID/PW を通知させていただきます。

申込期日 **12月7日(月) 12:00まで**

お問合わせ 神奈川大学日本常民文化研究所 Tel: 045-481-5661(代) Fax: 045-413-4151
〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋 3-27-1



Facebook
<https://www.facebook.com/jomin.kanagawa.univ/>



Twitter
https://twitter.com/jomin_official/



神奈川大学日本常民文化研究所ホームページ
<http://jominken.kanagawa-u.ac.jp/>

景観の 総合資料学

— 漁場図を読む2 —

本講座は、常民研共同研究「海域・海村の景観史に関する総合的研究」の一環として企画されています。常民文化研究講座としては、すでに2015年に「“漁場図”を読む」と題し第1回をおこなっており、その報告は『歴史と民俗』33号に掲載されています。

今回は漁場に限定せず、広く生業空間としての山野河海の利用について、歴史学にとどまらず民俗学や植生学などさまざまな学問分野から景観の変遷を切り口に論じることとしました。そのため、各講師の発表は、手法や論点、対象が多岐にわたり、ときに都市空間を含めた議論がなされます。

講師プロフィール

● 松田 睦彦（国立歴史民俗博物館）民俗学

『人の移動の民俗学—タビ〈旅〉から見る生業と故郷』慶友社2010年 / 「現役石材採掘職人が見た大坂城石垣石切丁場跡—民俗学的手法による近世の花崗岩採掘技術復元への接近」『国立歴史民俗博物館研究報告』210 2018年 / 「海の汽水域—汽水文化研究の拡大を目指して—」『汽水の生活環境史』神奈川大学日本常民文化研究所 非文字資料研究センター 2018年

● 恵谷 浩子（奈良文化財研究所）造園学

「宇治茶業の変化とレジリエンス」『都市の営みの地層—宇治・金沢』奈良文化財研究所 2017年 / 「文化的景観のめざすもの—“図”としての地域」『ランドスケープ研究』83 4 日本造園学会 2020年 / 「自然基盤と風土—“京”をつくる」『京都の文化的景観』調査報告書』京都市 2020年

● 橋本 道範（滋賀県立琵琶湖博物館）歴史学・日本中世史

『日本中世の環境と村落』思文閣出版 2015年 / 『再考ふなずしの歴史』サンライズ出版 2016年編 / 「消費論からみた中世菅浦」『史学雑誌』129 6 2020年

● 安室 知（神奈川大学日本常民文化研究所）民俗学

『田んぼの不思議』小峰書店 2013年 / 『自然観の民俗学—生活世界の分類と命名—』慶友社 2016年 / 『都市と農の民俗—農の文化資源化をめぐる—』慶友社 2020年

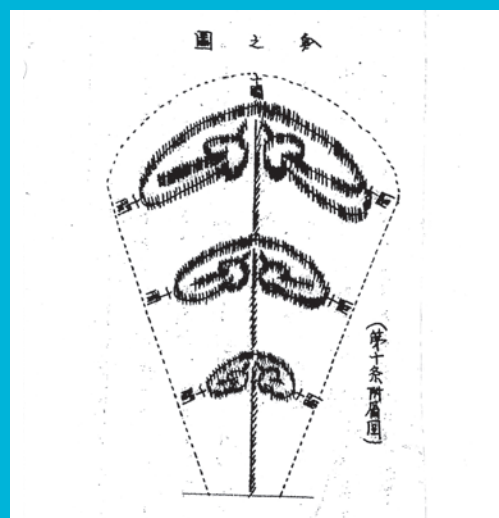
主催 神奈川大学日本常民文化研究所

〒221-8686 神奈川県横浜市神奈川区六角橋 3-27-1

Tel: 045-481-5661 (代) <http://jominken.kanagawa-u.ac.jp/>



テングサトリ（2007年 7月 横須賀市佐島 撮影 安室 知）



魬之図（常民文化研究所属）



鳥羽浦鰯桶大漁之図（常民文化研究所属）



瀬戸内海魚礁設置計画図（常民文化研究所属）